



一寸の虫にも五分の魂



去る6月18日、名古屋市北区、西来寺にて平成21年度の生類供養を行いました。一寸の虫にも五分の魂、安らかに成仏していただくべく手を合わせてまいりました。この生類供養は毎年恒例の行事であり、業務とは言え、日頃多くの生類(ネズミや虫たち)を殺生している私たちに、その意味と命の尊さをあらためて再認識できるひとときです。

西来寺には「はっそうねはんず八相涅槃図」という仏教画が所蔵されています。涅槃図とは釈迦の入滅を描いた図で、周囲には祈りをささげる菩薩や、嘆く衆生や動物たちが描かれています。西来寺の所蔵する涅槃図は他のものと少し異なり、鯨や魚、海老や蛸まで登場します。より多種の生き物を慈しむ気持ちの表れであると思われます。このような慈悲深い西来寺で毎年生類供養をして頂いている事は、不思議な縁を感じますし、ありがたいことです。



人以外の生き物も供養する儀式は、日本各地で伝統文化として継承されています。愛知県では知多地方で古くから虫供養が行われてきました。阿久比や東浦のものは有名で、県の無形民俗文化財にも指定されています。「南無阿弥陀仏」の百万遍念仏を唱える様子を、テレビで見たことのある方もいらっしゃるかと思います。これらの虫供養は、農作物を守るために殺してきた虫を供養するもので、儀式の形も弊社の生類供養とは異なりますが、人の生活のために犠牲になった命を弔うという点では同じですね。

私たちの仕事は虫たちの犠牲のもとに成り立っているということを、常に意識しながら業務にあたって行きたいと思います。
(編集部 O)

ヤスデの季節です。

みなさんは、梅雨の時期に家の周囲でヤスデを見たことはないでしょうか？ いつもは石の下や植木鉢の下に隠れていますが、この時期には雨で土中の水分が増えるので、溺死しないように這い出て、壁を登り、時には家の中にまで侵入することがあります。都市部でよく見られるヤスデは、体長2cm程度のヤケヤスデという種類のヤスデです。ヤスデは脚数が多くムカデに似ているため恐れられることもありますが、ムカデのような毒は無く、人に直接に危害を与えることはありません。生命の危機を感じた時は臭液を出して威嚇するので臭いぐらいです。自然の生態系では、土壌中の様々な有機物、枯れ葉や菌を食べる分解者なので、むしろいなくてはならない存在なのです。しかし、ヤスデはその見た目や、大量に発生する気持ち悪さから、不快害虫に分類され、人に嫌われる存在になってしまい、少し可哀そうな立場になっています。時折、不快感だけでは収まらず、大量に発生したヤスデが線路に這い出て押し潰され、その体液で電車がスリップして大事故を引き起こすこともあるそうです。



ヤケヤスデ

梅雨の時期に発生するヤスデは一時的なものであることが多いようです。本来ならば自然との共存という意味で、そのまま温かい目で見守ってあげたいものです。しかし、家の周囲に大量発生した場合、駆除が必要となります。専用の粉剤を散布することで、かなりの駆除効果が期待できますので、ヤスデ駆除のご相談は弊社HPからご連絡下さい。

(編集部 K)